

タイトル	韓国の音楽はなぜ世界で流行したのか		
所属	南山大学人文学部人類文化学科	氏名	竹内 美帆
	藤川ゼミ		

1. 問い：韓国の音楽はなぜ世界で流行したか

【考えられる論点】

- ・日本の音楽と韓国の音楽の違いは何か(楽曲・パフォーマンスから)
- ・日本の音楽市場と韓国の音楽市場の現状の違いは?(背景を知る)
- ・J-POPが欧米など世界にはあまり知られていない理由は何か
- ・メディア・SNSが音楽活動に及ぼす影響はどのくらいあるのか
- ・多国籍なメンバーから成るグローバルなグループを作る意図は何か
- ・国内で人気のあるグループと国外で人気のあるグループの違いは何か
- ・音楽のデジタル化に伴う変化・影響について
- ・韓国のアーティストと事務所との関係について(契約期間や給与をめぐる契約問題)
- ・デビュー前の「練習生」というシステムについて

2. 調査方法①

- ・本や論文、新聞など文献を読む
 - ・90年代後半から始まる「**第一次アイドルブーム**」(このとき「K-POP」という総称がつく)
 - ・2010年～2012年までの「**K-POPブーム**」「**第二次韓流ブーム**」
 - ・2017年から現在までの「**第三次韓流ブーム**」
- それぞれのブーム時に固有の事柄を見つけることができる、前のブーム時にとられていた策がその後どう影響したのかを知ることができる

3. 調査方法②

- ・**テレビ番組を参考にする**
- …2020/12/13に放送された「ナビゲーション『K-POPドリーム』～地方からスターを目指せ～」や東海テレビで毎週水曜日に放送されている「モエヨ? K-POP」(文献も多く執筆している古家正亨さんが出演)など、昨今のK-POPブームを受けてテレビ番組でもK-POPブームに迫る内容のものが多く放送されている
- 文献と違い、映像とともに見られることが強み

4. 調査内容①

【韓国人の「モーレツ主義」】

- 韓国において海外進出に成功しているのはK-POPだけではない。ゴルフなどのスポーツやサムスン電子などの電子産業においても功績を挙げている。
- 資金難から少数のエリートが求められる世の中で競争にさらされる中で自然と身に付いたもの(市場の狭小性からくるもの)
- + 韓国人が元々持っている資質…韓国は、虐げられたり戦わせられたり常に「死」と隣り合わせで生きてきた歴史を持つ。遺伝子レベルで常に「生きなければならぬ」という強迫観念に似た思いを抱いてきたからこそ、「サバイバル」にも慣れているし踏ん張りも効くのではない。
- 「モーレツ主義」は韓国人の身体に元々刻み込まれている民族性であり、島国育ちの日本人とは根本的に違う底力がある。
- * 出典：酒井 美絵子 2012『なぜK-POPスターは次から次に来るのか』朝日出版社

5. 調査内容②

【国からのバックアップ】

- ①K-POPグループが世界人気を得る(大衆文化の流行)→②CDやDVDなどの関連商品が購入される(関連商品の販売増加)→③グループのメンバーが広告塔を務める標品が売れる(韓国商品の販売増加)→④韓国の観光やハングル文字の勉強など、韓国文化そのものに興味を持つようになる(韓国そのものへの関心の高まり) というプロセスがある
- ⇒K-POPは韓国の**経済的側面**も担っている(韓国輸出産業の先兵)
- ⇒政府が国を挙げてK-POPを推進している
- ・政府の描くゴール=「音楽と言えば韓国」という世界での地位を築くこと(米国における自動車産業や銀行のような位置づけにする)
 - ・金銭面での支援以外にも、大統領が直々にYouTubeにK-POPミュージック専門チャンネルを作ることを提案するなど、コンテンツの振興を促す動きも活発
- * 日本政府が打ち出した「クールジャパン政策」と似ているが、韓国政府の打ち出したK-POP支援策のほうがはるかに戦略的で本腰の入ったものである

6. 調査内容③/これから調べたいこと

【海外進出を意識した楽曲作り】

- ・グローバル化に必要な要素=「口ずさめること」「クセになること」
- K-POPの楽曲はサウンドとパフォーマンスに重点が置かれており、分かりやすくキャッチーなフレーズが多く用いられている。一つのフレーズをリフレインさせることでハングルを知らない人の聴覚にも訴えることができるから。パフォーマンスもこれに合わせてキャッチーな振り付けにすることで(TWICEの『TTポーズ』など)視覚に訴えることができる。
- 【これから調べたいこと=「K-POPアーティストと政治の問題」】
- ・K-POPは重要な産業であるとして政府から多大なバックアップを受けており、国家戦略の一つとしての側面も持っている。そのためK-POPやそのアーティストは常に嫌韓などと結びつけられ政治の問題に絡めて考えられることが多い。また、多国籍なメンバーで構成されたグループでは、そのメンバーの母国の政治問題に関わる事柄で批判・誹謗中傷を受けることが多い。
- EX)・当時まだ16歳だったTWICEの台湾人メンバーがあるTV番組で台湾の旗を振ったことで、中国国内で「彼女は台湾独立派だ」と批判が殺到した。当該メンバーが公式に謝罪するまでに発展した。